

令和8年9月17日

白老町議会

議長 小 西 秀 延 様

広報広聴常任委員会

委員長 長谷川 かおり

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

1 調査事項

- (1) 議会広報誌の編集及び発行に関する事項
- (2) 議会広報・広聴の実施に関する事項
- (3) 議会広報・広聴の調査及び研究に関する事項

2 調査の方法 事務調査及び現地調査

3 調査日程

(1) 常任委員会

令和8年7月23日(木)

令和8年7月30日(木) 出前トーク

(2) 小委員会

令和8年8月18日(火) 北海道町村議会議長会 議会広報研修会

令和8年8月27日(木)

令和8年9月15日(火)

4 出席委員

委員長	長谷川 かおり	副委員長	田 上 治 彦
委員	水 口 光 盛	委員	氏 家 裕 治
委員	飛 島 宣 親	委員	前 田 弘 幹
委員	森 山 秀 晃	委員	佐 藤 雄 大
委員	前 田 博 之	委員	貳 又 聖 規
委員	森 哲 也	委員	西 田 祐 子
委員	広 地 紀 彰	議長	小 西 秀 延

5 職務のために出席した者の職・氏名

事務局長	本 間 弘 樹	主 幹	瀬 賀 光 子
書記	鈴 木 領 祐		

6 調査報告

本委員会は所管事務調査として、議会広報誌の編集及び発行に関する事項、議会広報・広聴の実施に関する事項、議会広報・広聴の調査及び研究に関する事項の調査を終了したことから、次のとおり報告する。

(1) 常任委員会（出前トークの実施）

特定非営利活動法人NPOウテカンパからの申請を受け、令和8年7月30日に、「“多文化共生” 外国人が白老町を選ぶための取組」をテーマとして出前トークを実施した。13名が参加し、同法人が行っている事業や一般社団法人北海道多文化共生NETが町内外で実施している事業について説明を受けたほか、近年町内でも増加する外国人への日常的な対応について意見交換を行った。

なお、開催報告は別紙のとおりである。

(2) 小委員会

① 議会広報誌の編集・発行

議会だより第196号の編集・発行を行った。

② 議会広報・広聴の実施

議会報告会の動画配信を行った。

③ 議会広報・広聴の調査・研究

より効果的な情報発信と広報・広聴活動の充実を図るため、議会広報研修会を受講したほか、主権者教育の実施に向けた協議を行った。

様式第3号（第6条関係）

白老町議会出前トーク開催報告書

令和8年8月3日

広報広聴常任委員長 長谷川 かおり 様

代表者氏名 田 上 治 彦

出前トークの開催を終了したので、以下のとおり報告いたします。

開催日時	令和8年7月30日（木） 15時00分 ～ 16時30分
開催会場	白老町総合保健福祉センター（いきいき4・6）研修室2
派遣議員	○広報広聴常任委員会 委員長 長谷川 かおり 副委員長 田上 治彦 委 員 水口 光盛、氏家 裕治、飛島 宣親、前田 弘幹、 森山 秀晃、佐藤 雄大、前田 博之、貳又 聖規、 森 哲也、西田 祐子 ○議 長 小西 秀延
出席者	特定非営利活動法人 NPO ウテカンパ 一般社団法人北海道多文化共生NET
出席者数	田村直美理事ほか4名（派遣議員を除く）

トーク内容	【テーマ】“多文化共生” 外国人が白老町を選ぶための取組 ＜NPO ウテカンパの活動＞ 外国人に関するものだけではなく、誰もが楽しめるイベントの開催や、白老東高校との協働によるまちづくりや居場所づくりをしている。 ・ママカフェ、手話講座、英語体験、アイヌ紋様刺繍講座、日本語クラブ、だれでも食堂、介護予防サロン、認知症サロン、手話講師、手話通訳派遣、ユースカフェ、包括的性教育 など 町内企業との関わりでは、外国人在籍企業に生理用品を寄贈したほか、企業に出向いて外国人向けに出張日本語クラブとして日本語の指導を行うなどの展開をしている。 ＜一般社団法人北海道多文化共生NETの活動＞ 令和6年3月に「マジックを通じて外国人と交流しよう！in 白老」の開催をきっかけにウテカンパと関わった事業を展開している。 JICA NGO等提案型プログラム「外国人の社会参画のための地域コミュニティ形成事業」として、白老町、秩父別町（北空知）、安平町を対象地域に事業を行っているが、白老町では①交流会の共催、②外国人企業意見交換会の実施、③ウテカンパ主催事業への協力などを通じて、『「話せる関係」「集まれる場」の土台ができ、地域主体の実践を外部支援が支える形に移行した』
特記事項	【主な意見交換】 （１）昨年のカムチャツカ半島沖地震での津波避難では、ちょうどJRの特急列車が白老駅に停車し、外国人の乗客を含む避難者が多くいた。そういった際にできる対応は。

	⇒ 外国人観光客に「やさしい日本語」は通用せず、非常時の電源の関係からスマートフォンの翻訳アプリを使うにも制限がある。ピクトグラムを用いた指差しボードなどがあると意思疎通が行えるので活用してほしい。 (2) 日常生活圏に外国人が多く見られるようになったが、どのように接していったらよいか。 ⇒ 外国人のみのコミュニティ構築やキャッシュレス決済アプリの普及などにより外国人が必ずしも日本語を覚えなくても生活できるようになってしまっている。だが、役場の前を歩く外国人観光客が日本人から「ハロー」と声を掛けられて笑顔になっている様子を見た。家族に声を掛けることと同じような気持ちで外国人に接することで良いコミュニケーションが取れていくのではないか。
--	--